

受賞の概要など

1. 2015年度環境経営学会賞(実践貢献賞)受賞の概要

- (1) 受賞著作；樋口一清、白井信雄編著「サステイナブル地域論」(中央経済社、2015年9月刊)
- (2) 受賞者；樋口一清(本学政策創造研究科教授)、白井信雄(本学サステイナビリティ研究所教授)、新見友紀子(NTTデータ総合研究所)
(なお、同書は中央経済社のグリーンMOT叢書全5巻の最終巻であり、同叢書刊行事業(執筆代表、樋口一清、北澤君義)については、環境情報科学センター賞特別賞が授与された。)

2. 受賞著作「サステイナブル地域論」の概要

- (1) 本書では、サステイナビリティを考えるため、地域という社会の単位に着目する。今日、地域が抱える課題は、複雑、多岐であり、その分析もインターディシプリナリーなアプローチを必要とすると考えられる。本書では、地域の企業活動や産業集積に焦点を当てた経済構造・経済メカニズムに関する理論面からのアプローチと、地域づくりという実践的なアプローチの二つの視角から、地域の課題の分析を行い、サステイナブルな地域の姿を浮き彫りにしようと試みている。
- (2) すなわち、序章において、「市場経済」、「自然の経済」、「生存の経済」の三つの経済についての新たな概念を提示した後、第1部では、地域のアクターとしての企業やその集積に着目し、地域企業・産業集積の競争優位と持続可能性の両立、シナジーの実現という課題を検討している。とりわけ、本書では、こうした課題の解決に際して、地域における「学習」(learning)のプロセスが果たす役割の重要性を指摘し、その理論的な内容、具体的な展開の可能性を論じている。
- (3) 他方、サステイナブルな地域づくりに関しては、①地域からのボトムアップによる持続可能な発展、②オルタナティブな地域発展の道、③「地域環境力」を高めることの三つの視点が基本となる。こうした

考え方に立って、第2部では、まず、持続可能な地域づくりの先進地、長野県飯田市をとりあげ、地域づくりの在り方や課題を探る。次に、持続可能な地域づくりを進めるための道具として、住民が地域を診断するためのチェックリストを提案し、広域化が進んだ浜松市の山間集落と、集落単位での地域づくりを進めてきた山形県朝日町での調査事例などを紹介している。さらに、「消滅自治体」でも話題となった地方の人口減少とその対策としての移住支援・移住者の活用

に焦点を当て、島根県海士町など5つの市町村の取組みを考察する。

(同書「はじめに」より)

